

札幌市のみどりに関する評価や今後の活用などについて、市民意見を把握し、計画の策定や今後の取組の参考とするためにアンケート調査を実施した。

■調査対象と調査方法

調査対象：札幌市民のうち、18歳以上の男女3,000人
 抽出方法：居住区、性別、年齢の3要素のバランスをとって無作為抽出
 配布・回収方法：調査票の郵送及び郵送による回収
 実施期間：平成30年5月8日（発送）～平成30年5月22日（締切）

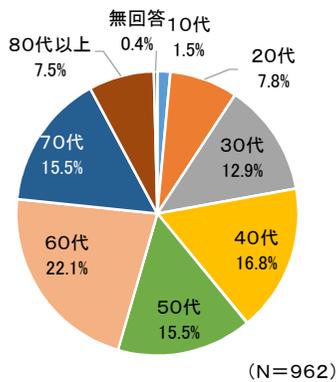
■回収率

配布数：3,000人
 回収数：962人
 回収率：32.1%

= 回答者について =

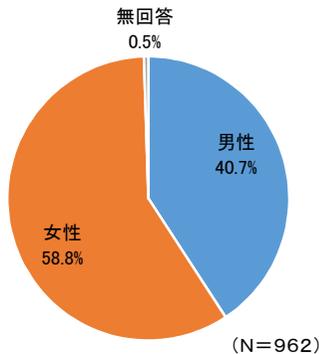
問1-1 年代

年代は、60代が約22%と最も多く、次いで40代が約17%と多かった。比較的各年代から回答が得られた。



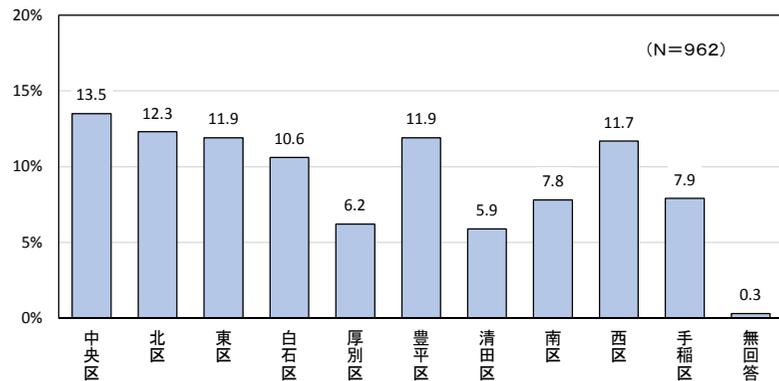
問1-2 性別

性別は、女性が約59%、男性が約41%と女性が多かった。



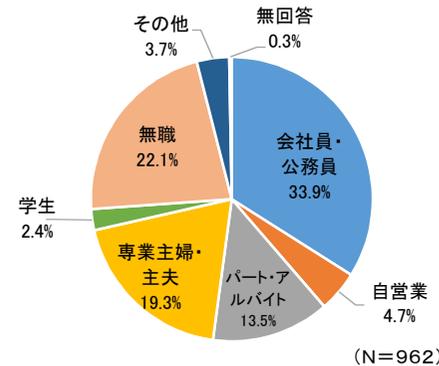
問1-3 居住区

居住区は、中央区が約14%と最も多く、次いで北区が約12%、東区及び豊平区が約12%、となっている。



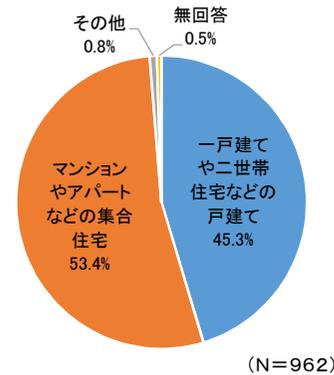
問1-4 職業

職業は、会社員・公務員が約34%と最も多く、次いで無職が約22%、専業主婦・主夫が約19%と多かった。



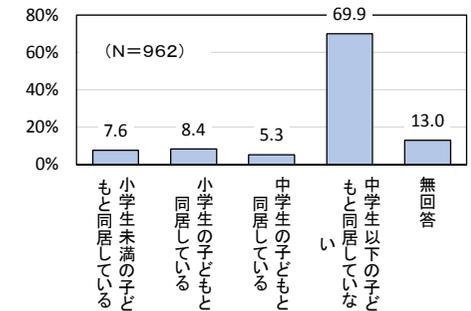
問1-6 住居形態

住居形態は、マンションやアパートなどの集合住宅が約53%と多く、一戸建てや似せたい住宅などの戸建ては約45%であった。



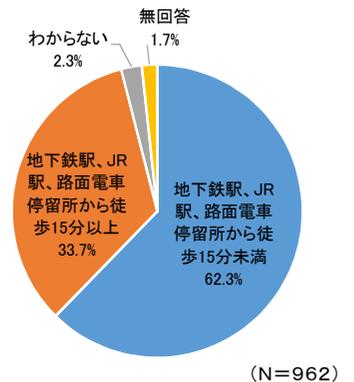
問1-5 中学生以下の子どもの同居の有無

中学生以下の子どもの同居については、中学生以下の子とも同居していない回答者が約70%であった。同居している場合、小学生以下が約8%と最も多く、次いで小学生未満、中学生となっている。



問1-7 住まい（駅からの距離）

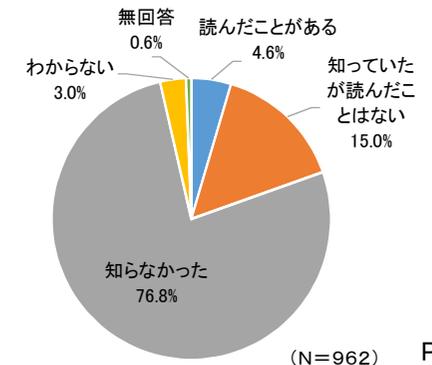
住まいの駅からの距離については、徒歩15分未満が約62%と多く、徒歩15分以上は約34%であった。



= 札幌のみどりについて =

問2-1 札幌市みどりの基本計画を知っているか

札幌市みどりの基本計画について、知らなかったという回答が約77%と最も多かった。知っていたが読んだことはないという回答が15%、読んだことがあるという回答が約5%であった。

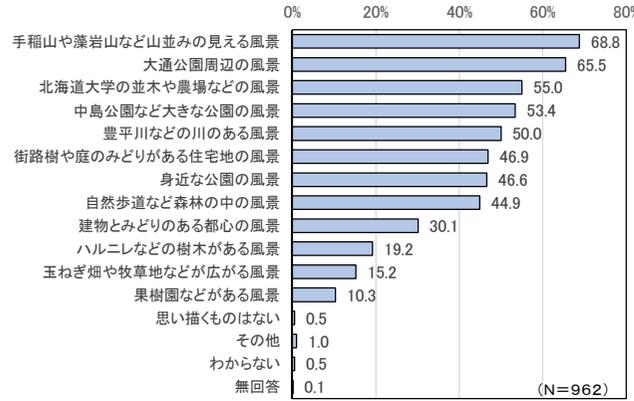


= 札幌のみどりについて =

問2-2 札幌の原風景として思い描くものは、どのようなものか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
「**山並みの見える風景**」が約69%と最も多く、次いで「**大通公園周辺の風景**」とが約66%であった。

【居住区別の傾向】
中央区では「中島公園などの大きな公園の風景」、白石区・豊平区では「豊平川など川のある風景」、北区では「北海道大学の並木や農場などの風景」が多く、**居住区内もしくは近隣のみどりを原風景として思い描いている傾向**が見られた。

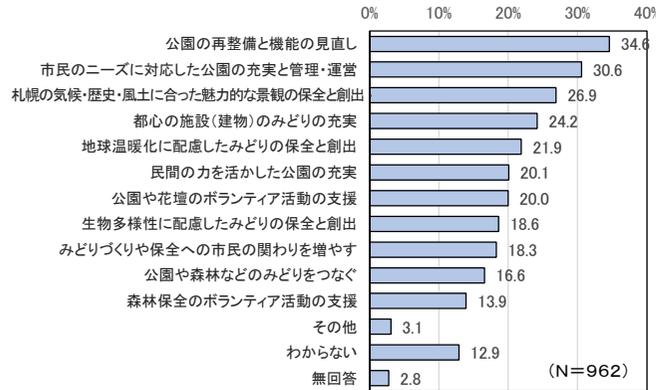


問2-3 札幌のみどりに関する現状で、何が不足していると思うか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
「**公園の再整備と機能の見直し**」が約35%で最も多く、次いで「**市民ニーズに対応した公園の充実と管理・運営**」が約30%であった。

【年代別の傾向】
上位3位はおおよそ全体と同様の傾向を示したが、**10～40代は「都心の施設（建物）のみどりの充実」、80代ではボランティアに関する回答が上位**となった。

【子育て世帯】
「**民間の活力を活かした公園の充実**」が上位となった。

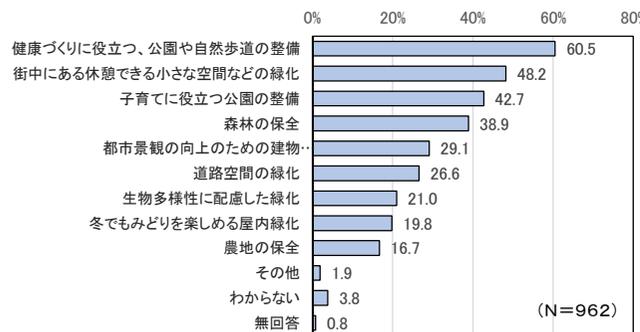


問2-4 みどりを増やすために優先して取り組んでほしいことは何か（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
「**健康づくりに役立つ、公園や自然歩道の整備**」が約60%で最も多く、次いで「**休憩できる小さな空間などの緑化**」が約48%、「**子育てに役立つ公園の整備**」約43%であった。

【年代別の傾向】
50、60代では他の年代よりも「**森林の保全**」の要望が多くあった。

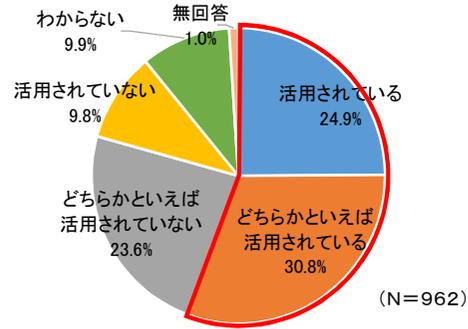
【子育ての有無別の傾向】
子育て世帯は全体と同様の傾向であったが、子育て世帯以外は、「**森林の保全**」が上位となった。



= 公園について =

問3-1 (1) 自宅近くの小さな公園は普段から活用されていると思うか（あてはまるもの1つに○）

【全体の傾向】
「活用されている」「どちらかといえば活用されている」を合わせると**約56%が活用されている**との回答であった。

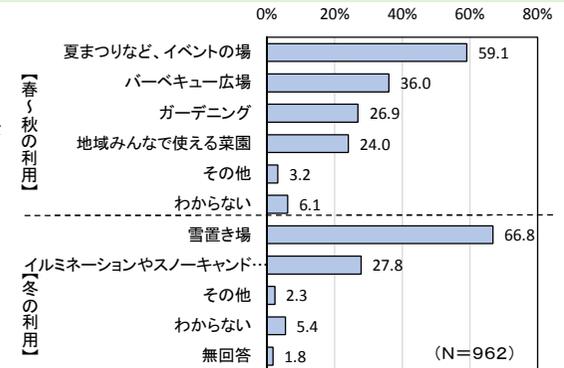


問3-1 (3) 地域が活用できる場として貸し出す場合、どのようなことに利用したいか。（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
夏～秋の利用では、「夏まつりなどのイベントの場」、冬の利用では「雪置き場」が多かった。

【年代別の傾向】
夏～秋の利用「**バーベキュー広場**」は、年代が低くなるにつれて要望が多くなった。10～30代では半数以上の回答があった。

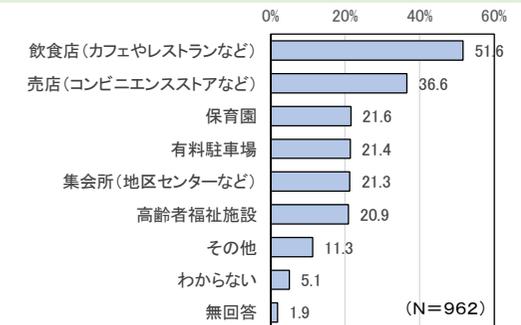
30、40代の冬の利用は「**雪置き場**」が80%程度回答され、他の世代に比べニーズが高かった。



問3-2 札幌市の大きな公園（約300坪（約1,000㎡）以上）と一緒にあると思う施設は何か（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
「**飲食店**」は約52%、「**売店**」は約37%で**要望が多**くあった。「**保育園**」「**有料駐車場**」「**集会所**」「**高齢者福祉施設**」は20%程度であった。

【年代別の傾向】
10～70代では上位2位は、全体と同様の傾向となった。3位となったものは、20～40代では「**保育所**」、50～60代では「**有料駐車場**」60、70代では「**高齢者福祉施設**」で、**各年代のライフスタイルに関わりの大きいものが選ばれる傾向**にあった。

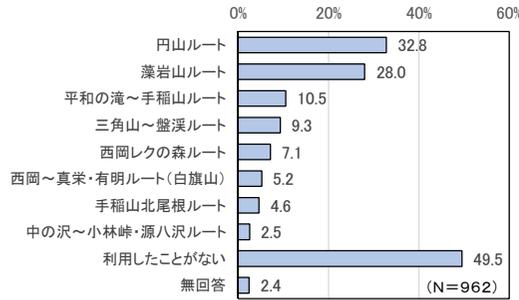


= 自然歩道について =

問4-1 (1) 利用したことのある自然歩道はどれか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】
 利用経験の有無は、ほぼ半数に分かれた。利用したことのあるルートとしては、「円山」が約33%でもっとも多く、次いで「藻岩山」が約28%であった。小学校等の遠足などで利用されているルートが多い結果となった。

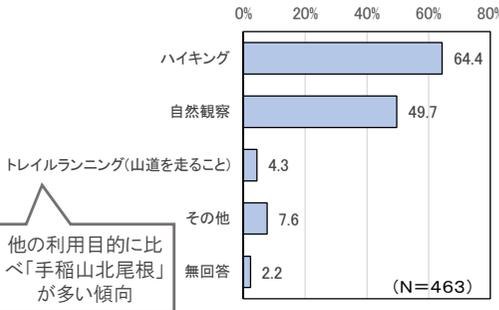
【居住区別の集計】
 中央区では「円山」、南区では「藻岩山」、西区では「三角山～盤渓」、手稲区では「手稲山北尾根」「平和の滝～手稲山」が他の区に比べ多く、居住区内もしくは近隣の自然歩道を利用している傾向が見られた。



問4-1 (2) 自然歩道をどのように利用しているか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】
 「ハイキング」が約64%で、「自然観察」が約50%であった。

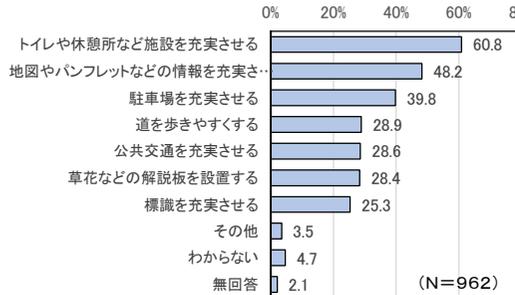
【年代別の傾向】
 20代、60～80代以上では「自然観察」が50%以上で他の年代よりも多かった。



問4-1 (3) 自然歩道をどのようにすると使いやすいと思うか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】
 「トイレや休憩所などの施設の充実」が約61%、次いで「地図やパンフレットなどの情報の充実」が約48%であった。

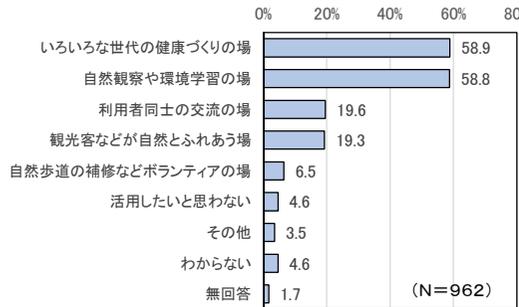
【子育ての有無別の傾向】
子育て世帯では、「駐車場の充実」が子育て世帯以外に比べニーズが高かった。



問4-1 (4) 自然歩道をどのように活用したいか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】
 「健康づくりの場」「自然観察や環境学習の場」が60%程度で高いニーズがあった。「利用者同士の交流の場」や「観光客などが自然と触れ合う場」は20%程度であった。

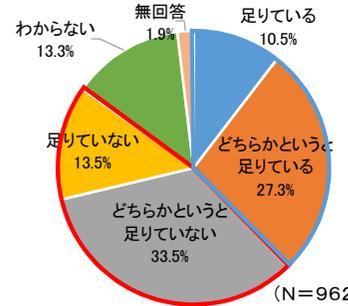
【年代別の傾向】
 「健康づくりの場」「自然観察や環境学習の場」はすべての年代で上位となった。10～30代では、「観光客などが自然と触れ合う場」、60～80代以上では、「利用者同士の交流の場」が多かった。



= 都心のみどりについて =

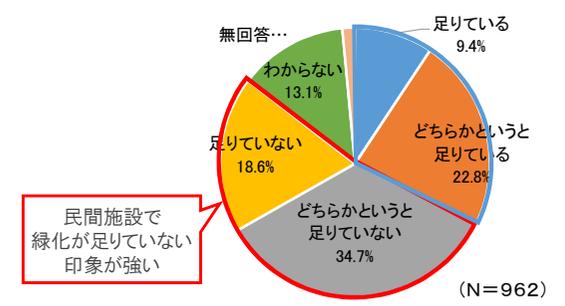
問5-1 (1) 都心の公共施設の緑化は足りていると思うか (あてはまるもの1つに○)

【全体の傾向】
 「足りている」「どちらかという足りている」の合計は約38%、「足りていない」「どちらかという足りていない」の合計は約47%であった。



問5-1 (2) 都心の民間施設の緑化は足りていると思うか (あてはまるもの1つに○)

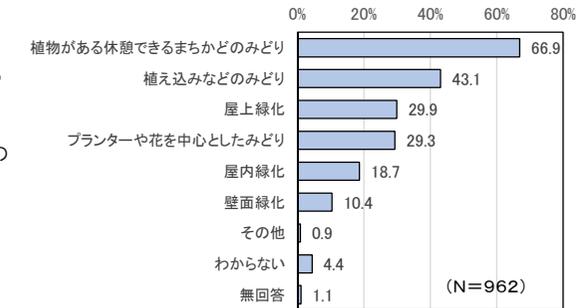
【全体の傾向】
 「足りている」「どちらかという足りている」の合計は約32%、「足りていない」「どちらかという足りていない」の合計は約53%であった。



問5-1 (3) 都心の公共及び民間施設にどのようなみどりがあるとよいと思うか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】
 「休憩できるまちかどのみどり」は約67%で最も多く、次いで「植え込みなどのみどり」は約43%であった。

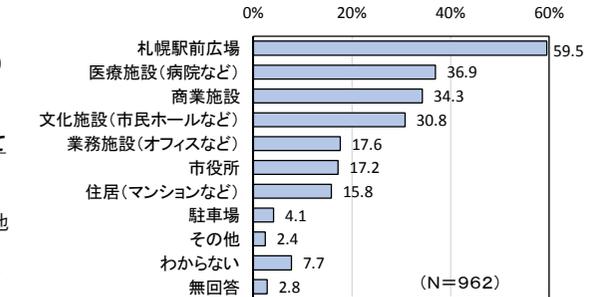
【年代別の傾向】
 30～50代では、「屋上緑化」が40%程度で、他の年代に比べニーズが高かった。



問5-1 (4) 都心のどのような施設にみどりを増やしてほしいか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】
 「札幌駅前広場」との回答が約60%と最も多かった。「医療施設」「商業施設」「文化施設」は30～40%程度であった。

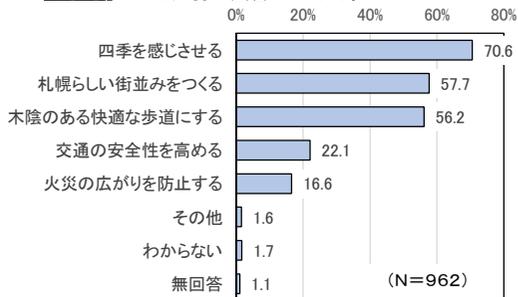
【年代別の傾向】
10代では、「札幌駅前広場」が約86%で突出して高かった。20～50代では「商業施設」(40%程度)、50～80代以上では「文化施設」(30～40%程度)が他の年代に比べニーズが高かった。普段利用する機会の多い施設に対するニーズが大きい傾向が見られた。



= 街路樹について =

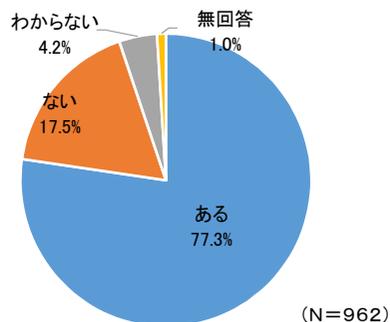
問6-1 利用した街路樹の“はたらき”としてどれが大切だと思うか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
「四季を感じさせる」が約71%で最も多かった。「札幌らしい街並みをつくる」や「木陰のある快適な歩道にする」は60%弱の回答があった。



問6-2 住まいの近くに街路樹はあるか（あてはまるもの1つに○）

【全体の傾向】
「ある」との回答は約77%であった。



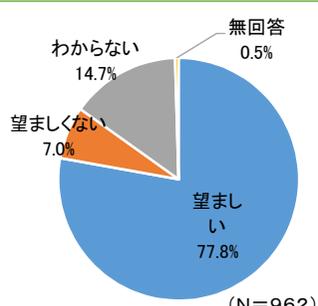
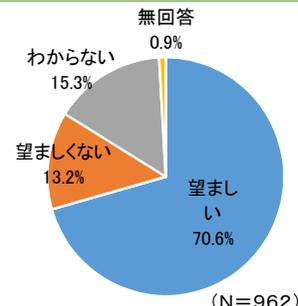
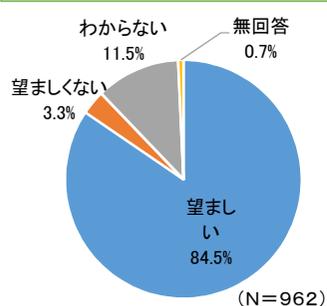
問6-3 札幌市の街路樹に関する取組について、どう思うか（あてはまるもの1つに○）

【全体の傾向】
すべての取組において「望ましい」との回答が70%以上と多くあった。特に「札幌の気候に適した種類に替えていく取組み」は約85%が「望ましい」との回答があった。

街路樹を札幌の気候に適した種類に替えていく取組み

狭い歩道の歩行や除雪に支障のある街路樹を撤去する取組み

多くの市民や観光客が目にする都心部の街路樹を、大きく育てる取組み

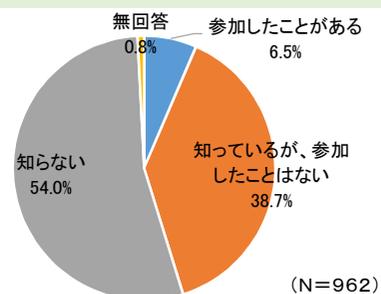


= みどりのボランティアについて =

問7-1 みどりのボランティアに参加したことがあるか（あてはまるもの1つに○）

【全体の傾向】
活動自体を「知らない」との回答が約54%で半数以上となった。「知っているが参加したことがない」は約39%で、「参加したことがある」は約7%であった。

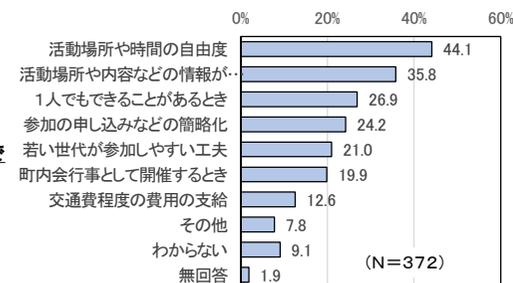
【年代別の傾向】
10～50代では「知らない」が多く、年代が低くなるにつれて割合が多くなった。10代では90%以上が「知らない」と回答した。
60～80代以上では「知っているが、参加したことがない」の割合が多かった。



問7-2 何があれば（また、どのようなときに）参加したいか（あてはまるもの全てに○）
※問7-1の「知っているが参加したことがない」の回答者のみ

【全体の傾向】
「活動場所や時間の自由度」が約44%で最も多く、次いで「活動場所や内容などの情報が手に入る」が約39%であった。

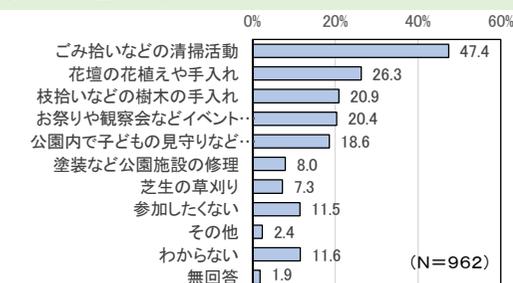
【年代別の傾向】
10～40代では「若い世代が参加しやすい工夫」「1人でもできることがあるとき」が多かった。50～60代では「参加の申込などの簡略化」、70～80代以上では「町内会行事として開催するとき」が多かった。
20代、40代では「交通費程度の費用の支給」が30%程度と他の年代に比べ多かった。



問7-3 今後、どのような活動に参加したいか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
「清掃活動」が約47%で最も多く、次いで「花植えや手入れ」が約26%であった。「樹木の手入れ」「イベントのお手伝い」は20%程度であった。

【年代別の傾向】
10～30代では「イベントのお手伝い」が多く、年代が低くなるにつれて割合が大きくなった。

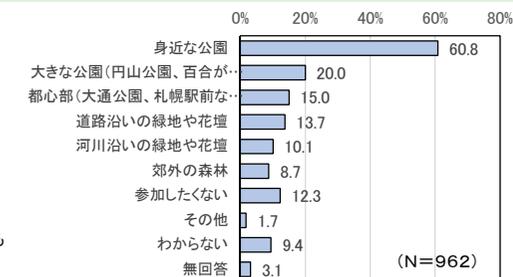


問7-4 どのような場所でボランティア活動に参加したいか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
「身近な公園」が約60%で突出して多く、次いで「大きな公園」「都心部」との回答が多かった。

【年代別の傾向】
10～30代では「大きな公園」「都心部」のニーズが他の年代に比べ多く、60～70代では「道路沿いの緑地や花壇」が他の年代に比べ多かった。

【子育ての有無別の傾向】
子育て世帯では、「身近な公園」の割合が高く、子どもの年齢が低い世帯ほど、その割合が大きくなった。



問7-5 ボランティア活動に参加する際、何を期待するか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】
「公園や森林をきれいにする」「札幌の街並みをきれいにする」が約50%で多く、次いで「花やみどりに囲まれて癒される」（約40%）「健康になれる」（約29%）であった。

「自己研鑽」や「周囲から認められる」は10%以下であった。

【年代別の傾向】
「健康になれる」は、年代が高くなるにつれて割合が大きくなり、80歳以上では約43%と他の年代に比べ多かった。

